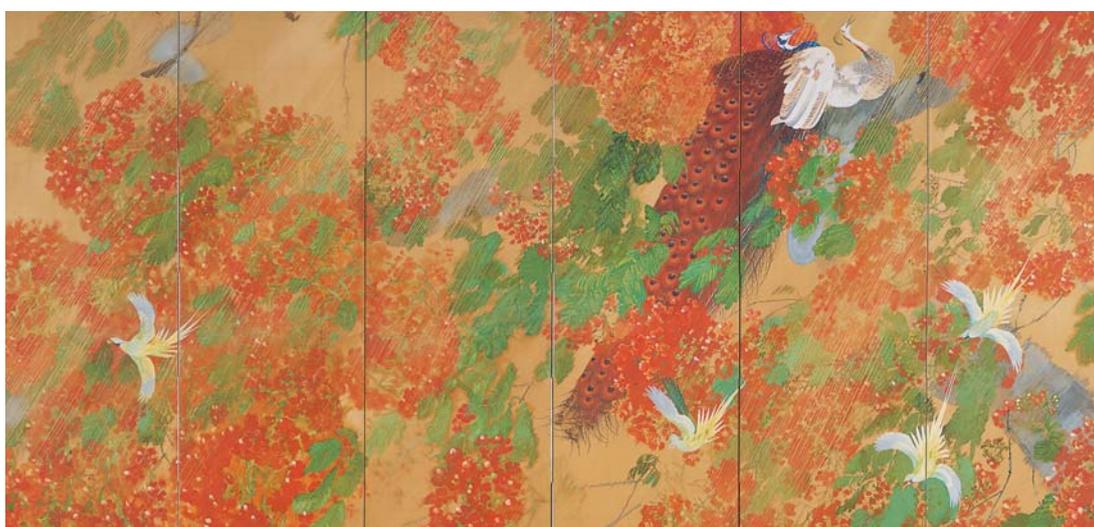


加越能の美術

石川・富山的美100選

—明治から現代の絵画・彫刻・工芸—



石崎光瑤「燦雨」南砺市立福光美術館蔵（左隻）

- 前田家の雅 前田育徳会尊經閣文庫分館
 - 新春を寿ぐ 第2展示室
 - 近代彫刻 —空間と構成の美— 第4展示室
 - 香りをかざる —現代の香道具 香炉・香合・香盆— 第5展示室
-
- コレクション展示 主な作品
 - ミュージアムレポート
 - 展覧会回顧
 - 行事案内
 - 所蔵品紹介

加越能の美術

石川・富山の美100選

—明治から現代の絵画・彫刻・工芸—

主催／石川県立美術館 共催／北國新聞社
後援／石川県・富山県・金沢市各教育委員会、NHK金沢放送局

平成23年1月4日(火)～2月6日(日)会期中無休

古来より加越能（加賀・越中・能登）と呼ばれ、独自の文化を育んできた石川・富山は、加賀藩の文化政策による文化的発展が明治維新で途絶え、美術工芸に従事する人々は大きな打撃を受けました。しかしその後、伝統文化を復興する明治政府の政策と、多くの人々の尽力により、再びこの地の美術工芸は力を取り戻し、現代まで技術や歴史、創作への思いが受け継がれています。

本展では、大きく転換する明治期を起点に、現代に至る石川・富山両県の美術工芸の展開と現在の状況を、名匠・名工の対照などを織り交ぜて紹介します。郷土の文化に対する理解と愛着を深め、この地の優れた美術工芸の歴史を、未来に繋ぐことを目的として開催するものです。各ジャンルの作家と作品の内訳は、日本画二十八作家・二十九点、油彩画二十五作家・二十八点、彫刻十八作家・十九点、工芸五十一作家・五十一件（陶磁十一、漆工十七、染織三、金工十五、木工三、截金一）で、全百二十二作家、百二十七点の展示です。また百二十二作家中、石川は八十六作家、富山は三十六作家となっています。こうしてみますと富山側が少ないように思えますが、石崎

光瑤の華麗な「燦雨」や郷倉和子の「晴日」といった屏風の大作や、瀧口修造のデカルコマニーの小品がずらりと並ぶ「孤独の起源」、また長く富山に暮らし版画界に多大の影響を与えた棟方志功の代表作「二菩薩釈迦十大弟子」の初刻など、実にバラエティに富みかつ充実した布陣といえます。

県民性でいえば富山が進取の気性に富み、石川が保守的であるといわれます。こうしたステロタイプな見方で作品の傾向を論じるのは危ういものですが、石川の伝統的工芸に連なる作家層の厚さは群を抜いたもので、今回五十一作家中四十作家が石川であることや、絵画・彫刻でも日展を中心とする具象系の作家が石川には多く見られるということも、それはある程度で言い得ているのかと思われま

す。こうした隣同士で、しかもかつて長く前田家の政策を受けてきた両県の近現代作家の作品を対照させるといふ展覧会は、当館では初めて開催するものです。優れた作家達の違いと共通性をご覧いただき、風土と美術の関連性や今後の展望など、思いを馳せていただければと思います。

新年のご挨拶

館長 嶋崎 丞

あけましておめでとうございます。本年も皆さん方のご支援ご協力を得て、今まで以上に活動を展開していきたいと考えていますので、よろしくお願い申し上げます。

大規模改修以後、本年で早くも三年がたち、その間に入館者に対して、アンケートや色々な機会を利用して、当館に対する要望をお聞きしてきました。

そのなかで最近多くなってきたのは、美術館からの情報発信がやや不足気味ではないかとのことご意見です。この美術館だよりは私共の情報提供の最も基本的なもので、友の会会員を中心として多くの方々の目にふれる所へ配布しています。「美術館だよりやポスターを見てやってきた」という回答が多いことは、これらがそれなりの役割を果たしていることを示しています。しかし本年に入ってから「ホームページを見て」という回答が、美術館だよりやポスターを超えるようになり、まさに情報化時代に入ってきたかとの感じがいたします。それに「知人・



中川衛「重ね象嵌銀器『草原の森』」
文化庁蔵



宮本三郎「日本の四季 地曳網(夏)」
小松市立宮本三郎美術館蔵



西山英雄「桜島と連絡船」
京都国立近代美術館蔵

【主な出品作家と作品】

石川義「山里」当館蔵／石崎光瑠「燦雨」
南砺市立福光美術館蔵／尾竹国観「満潮・
浄火」新潟県立近代美術館蔵／下保昭
「廬山双瀑」富山県水墨美術館蔵／郷倉
和子「静日」富山県立近代美術館蔵／西
山英雄「桜島と連絡船」京都国立近代美
術館蔵／鴨居玲「1982年私」当館
蔵／五島健三「冥想」南砺市福野文化創
造センター蔵／瀧口修造「孤独の起源」
富山県立近代美術館蔵／中川一政「樹下
子供」白山市立松任中川一政記念館蔵／
前田常作「天の浮舟」富山県立近代美術
館蔵／宮本三郎「日本の四季」小松市立
宮本三郎美術館蔵／棟方志功「二菩薩釈
迦十大弟子」南砺市立福光美術館蔵／
佐々木大樹「みのり」富山市佐藤記念美
術館蔵／吉田三郎「男立像」当館蔵／板
谷波山「葆光彩磁チューリップ文花瓶」
当館蔵／十代大樋長左衛門「時つ花三鳥
飾壺」日本芸術院蔵／三代徳田八十吉「耀
彩鉢『極光』」当館蔵／武腰敏明「色絵
白金彩飾鉢『長閑』」当館蔵／大場松魚「平
文南飛の箱」当館蔵／彼谷芳水「白樺風
呂先屏風」富山県水墨美術館蔵／寺井直
次「萌春時絵水指」当館蔵／松田権六「蓬
萊之棚」当館蔵／山崎寛太郎「空」富山
県水墨美術館蔵／二塚長生「友禅着物『瀑
響』」文化庁蔵／初代魚住為楽「砂張銅鑼」
当館蔵／大角勲「天地守道(気)」高岡
市美術館蔵／中川衛「重ね象嵌銀器
『草原の森』」文化庁蔵／蓮田修吾郎「白
銅浮彫『聖歌の碑』」当館蔵／山室百世「鑄
銅平足扁壺」日本芸術院蔵／水見晃堂「大
般若理趣分経之箱」当館蔵／西出大三「截
金彩色木彫合子『華鳥』」当館蔵

■関連行事

■土曜講座 十三時三〇分 美術館講義室 聴講無料

| | |
|------------|--|
| 一月八日 (土) | 「松田権六と石川県の漆芸家」 南 俊英 学芸第一課担当課長 |
| 一月十五日 (土) | 「宮本三郎 — その生涯と芸術 —」 織田 春樹 学芸主査 |
| 一月二十二日 (土) | 「石川の彫刻 吉田三郎とその周辺」 宮 衛 学芸第一課長 |
| 一月二十九日 (土) | 「石川県の工芸 — 人間国宝とその周辺(1) 染織」 寺川 和子 学芸主査 |
| 二月五日 (土) | 「鴨居玲と金沢美専」 二木伸一郎 学芸第一課担当課長 |

■ギャラリートーク

午前十一時開始
一月九日(日)、十日(月・祝)、十六日(日)、
二十三日(日)、三十日(日)、二月六日(日)

| ■開館時間 | | ■観覧料 | |
|--|--|--------|--------------|
| 午前九時三十分～ 午後八時まで (入館は 午後五時三十分まで) | | 一般 | 一、〇〇〇円(八〇〇円) |
| | | 大学生 | 六〇〇円(五〇〇円) |
| | | 小・中・高生 | 三〇〇円(二〇〇円) |

※() 内は二十名以上の団体料金

友人から聞いて」との回答も多くあり、
このことは来館者が展示内容や事業に参
加して「よかった」と感じた事を口コミ
で宣伝して頂いた結果であるということ
ができると思います。

こうした結果から、いうまでもありま
せんが、美術館の展示企画内容の充実と、
その内容を含めての情報発信、それも新
しい時代にふさわしい情報機器を駆使し
ての広報宣伝が、一般の人々から広く求
められているということができるとは
ないでしょうか。

本年も昨年以上の展覧会や各種事業を
開催し、この美術館だよりを中心にお知
らせて参りますので多くの方がたのご
来館を心からお待ちしています。

新春を寿ぐ

1月4日(火)～2月7日(月)会期中無休

「新春を寿(ことほ)ぐ」とのタイトルを冠した今回の特集では、新しい年が良き年でありますようにとの願いをこめて、新年の干支である兎をモチーフとした作品から、実際の用途の他に「お目出度い」シーンを演出するのに用いられる能面・能装束や、梅、松、鶴、春秋など様々な吉祥図による絵画、調度を展示します。

兎は中国においては、満ち欠けを繰り返す月に住み、不老長寿の仙薬をついていると考えられています。そこで、不老不死や復活、再生などのお目出度い意匠として様々な場面に用いられてきました。日本では仙菓が餅に変わりましたが、文化的な意味は継承されています。そこには兎の強い繁殖力や、俊敏さに対する評価も加味されています。

たことでしょうか。

今回兎の名作として、先の「久隅守景展」で館内外の表示に大活躍した『笹に兎図』に改めて注目したいと思います。学問を奨励した加賀藩の文化風土の中で画業を開花させた守景は、道教、儒教、仏教に関する鋭い洞察を、実にわかりやすく表現しています。今回は、この作品にこめられた深意と、上部を大きく開けた構図の謎解きとして、仏画の協絵として展示します。中絵には、牧谿の筆と伝えられる『観音図』を用います。新しい年を祝うのにふさわしい一点となるのではないのでしょうか。



久隅守景「笹に兎図」

前田家の雅

1月4日(火)～2月7日(月)会期中無休

今年のNHK大河ドラマ「江(え)」が始まります。桃山時代から江戸時代という激動の転換期に、波乱万丈の人生を送ることとなった女性・江の生き方を通して、女性の視点からその時代と女性を検証するドラマのようです。このように女性が大きくクロージアアップされる今日でもありますので、そのトレンドに合わせて、前田家の姫たちに焦点をあてた作品を公開します。前田家では徳川将軍家からの輿入れが多々ありましたが、将軍家にとって、大藩で外様大名の前田家を配下とするために、必要不可欠の方法でした。最初が三代藩主利常へ二代将軍秀忠と江の二女珠(たま)が、次に四代光高に家康の孫で水戸の

徳川頼房の二女阿智が、五代綱紀に保科正之の二女で二代将軍秀忠の孫磨須が、六代吉徳に五代将軍綱吉の養女松が、十三代斉泰に十一代将軍家斉の二十一女偕子(溶姫)がそれぞれ輿入れしています。現在、婚礼調度としてまとまっているのは溶姫所用のもので、この中から、十二手箱・黒箱などを展示します。なお、現在の東京大学の赤門は、文政十年(一八二七)十一月、溶姫を迎えるに際し御守殿門として作られたものです。その他、「姫君入輿行列図」や利常の四女富姫の遺愛品の「女三十六歌仙色紙雑図屏風」、さらには香道具や名物裂をあわせて展示しますので、新春のひと時を美術館でお過ごしください。



「女三十六歌仙色紙雑図屏風」(部分)

香りをかざる

—現代の香道具 香炉・香合・香盆—

1月4日(火)～2月7日(月)会期中無休

日本における香の歴史は古く、原料となる香木は仏教伝来とともに日本に伝わりました。主として儀式の際に用いられており、香木そのものが貴重であったことや、日常から非日常への転換を象徴するものとして用いられていたことから、香を焚いたり、香を入れるための器物には古くから美しい装飾が施されてきました。

平安時代に入ると、貴族たちの間で、宮廷遊技である香合そごわせ、空薫そらぎや衣類に香を焚きしめる習慣が根付いたことで、より一層豪華で華麗な道具が作られるようになりました。香の種類も、香木をそのまま焚くだけではなく、現在私たちがよく目にする焼香や練香が考案され、世界でも類を見ない日本特有の文化的礼法、香道が成立しました。

また日本文化の主軸をなす茶道でも、香が重要な位置を占めたことで、現在に至るまで、工芸技術の粋を集めた香の道具が作られています。

明治時代以降、日本人の生活様式が大きく変化した、近代から現代の工芸作家たちの作品は、香道、茶道などの伝統的な技芸、礼法などの道具に多く見られるようになりました。

今回の展示では、香の道具、特に香炉、香合、香盆の優品を集めました。生活を彩る香り、その香りに花を添える美しい工芸品の数々から、ご覧いただいた方々が、作家たちやこれらの作品を使う人々の豊かな感性を感じ、日本独自の文化である香を、見つめ直していただくことができれば幸いです。



北出不二雄「色絵更紗竹文香合」

近代彫刻

—空間と構成の美—

1月4日(火)～2月7日(月)会期中無休

一般的に彫刻は空間内に「どれだけの量をどのような関係性で構成し、配置するか？」というところが形而上、問われるものですが、これは作品制作時よりも、作品の設置から鑑賞の各シーンにおいても考えられるべきものであり、またこれは抽象・具象などの作品スタイルの別や、作品の素材・種類を問わずに通底するものといえます。

伝統的な彫刻の概念である量塊・量感、球心性（中央に向かってまとまりをみせる）をその基本的な要素の一つとするのですが、空間性に比重を置く作品では、彫刻の動勢が発展する方向へ向け開かれた空間が与えられなければなりません。

近代彫刻では、量塊に穴を穿ったり、割れを走らせたり、またずらしたりして緊張感の創出を目指す作品も見えるほか、作品内に大きく空洞を空けたり、作品構成として作品に負の空間を抱かせたりして周りの空間を取り込んだり、さらには作品を取り巻く環境に溶け込み一体化を図るかのような作品など多彩な展開が見えるものとなっています。

本展ではこのように三次元の立体芸術であり、物体芸術でもある彫刻について、空間性からの視点に立って、量塊の構成美と負の空間性を生かした多彩な作品を眺めるていただくものです。



高橋清「人とトラロック」

学校出前講座・アートゲーム大作戦！



外日角小学校



清湖小学校



湖北小学校



アートゲーム大作戦！
アイマスクの子どもとお母さん



アートゲーム大作戦！
まねっこあてっこハイポーズ

十一月の学校出前講座は、かほく市の外日角小学校、内灘町の清湖小学校、加賀市の湖北小学校の三校。外日角小学校・清湖小学校は、五・六年生、湖北小学校は一年生から六年生を対象に鑑賞授業を行いました。各クラスごとに私たち学芸員がお邪魔して鑑賞授業をさせていただいている形の授業ですが、子どもたちや担任の先生の持っているパワーで、学びがさらに大きくなったり深くなったりすることに出会います。私たち学芸員にとっては、学校出前講座だからこそ味わえる貴重な体験です。季節は冬に向かい、寒い時でも展示会場は作品保護のため暖房なしで行っているこの講座ですが、子どもたちの作品を前にしての好奇心いっばいの表情や素直な感性にいつも心温まるものを感じています。

十一月二十一日、キッズプログラム「アートゲーム大作戦！」を行いました。小学生親子の方々に、学校出前講座でも行っているアートゲームを展示室で体験していただく講座です。一つ目のゲームは「これなに？パズル」。当館所蔵作品のシルエットをパズルにしたものを完成させて、どんな作品

かを当てるゲームです。作品は「色絵雉香炉」でしたが、みんな上手にパズルを完成させ、作品を見に行くときの案内役はキッズプログラム参加の常連の子どもたちがつとめてくれました。二つ目は、「美術館ミステリーツアー」。親子どちらかにアイマスクをしてもらい、アイマスクをしていない方が自分のお気に入りの作品を説明してどんな作品かを想像してもらおうゲームです。作品を前に子どもたちと視線を合わすようにしゃがんだり、肩を抱いて語る保護者の方々。そんな姿があちこちで見られる展示室は、とてもほのぼのとしたすてきな空間でした。三つ目は、「まねっこあてっこ」。彫刻作品のポーズをとり、それがどの作品かを当てるゲームです。見るだけでなく体も動かして鑑賞するゲームで、子どもたちだけでなく保護者の方も積極的にポーズをとってくださいました。今回の講座は、小学生のご兄弟と一緒に来られた年長さんが何人もおり、美術鑑賞のスタートとして気軽に楽しんでいただけた時間になったようです。ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。

一月に当館所蔵品が みられる展覧会

「初代須田菁華展」

山代に華開いた近代九谷の名工」

会場／石川県九谷焼美術館

会期／平成二十二年十一月十三日～平成二十三年二月十三日

「色絵人物図古九谷写平鉢」初代須田菁華

他三点

「追悼人間国宝三代徳田八十吉展」

煌めく色彩の世界」

会場／そごう美術館（横浜市）

会期／平成二十三年一月二日～二月十三日

古九谷および三代徳田八十吉作品 七点

「九谷 — 伝統の継承者たち —」

会場／小松市立博物館

会期／平成二十二年十二月一日～平成二十三年一月四日

「釉彩華陽飾鉢」二代浅蔵五十吉 他一点

「人間国宝 — わざと美の巨匠たち —」

会場／熱田神宮宝物館（名古屋市）

会期／平成二十三年一月一日～一月二十五日

「金胎牡丹蒔絵箱」寺井直次 他二点

「美へ挑む うるしの輝き」

— 近現代日本の漆藝 —

会場／浦添市美術館（沖縄県）

会期／平成二十三年二月十五日～二月十三日

「迎陵頻伽宝相華文蒔絵経箱」松田権六

他十点

展覧会回顧

加越能の美術 — 縄文から江戸時代までの名宝 —

会期：平成22年9月11日(土)～10月24日(日)

加越能の美術では、原始古代から江戸時代にいたる加賀・越中・能登の文化財を紹介しました。この地域を紹介する上で、加越能は格好の名称かと考えましたが、思いの外、一般には知られておらず、加賀・越中・能登という言葉の説明が必要でした。

原始古代の分野では、当館で初めての公開となる縄文土器に注目が集まりました。なかでも能登真脇遺跡の規模と出土品の多さに鑑賞者は一様に驚いた様子でした。宗教美術は古代中世を通じてこの地域の美術を語る上で欠くことのできない分野でした。しかし仏像はご本尊としておられる場合もあり、また訪れる参拝客の目的の品でもあって、それが不在となってしまうわけですから、ご承諾をいただくのに大変骨を折りました。そうした苦勞の甲斐もあって、鑑賞者から間近に見ることができて大変良かったとお褒めの言葉をいただきました。普段は信仰の対象ですが、展示室では他の展示品に決して劣らないすばらしい美術品としても非常に価値が高いということを変更して知ることになりました。

江戸時代では、加賀藩前田家の保護育成によってこの地域に展開した、華やかな加賀文化の粋をご覧いただきました。個性的な地域文化を象徴する内容で、絵画工芸の優品に鑑賞者の目は釘付けになっていました。

また二階前田育徳会尊經閣文庫分館でも加賀藩の美術工芸が展示され、これらの文化財を通じて前田家が加賀文化に果たした役割の大きさを再認識させられるとともに、そのすばらしさに魅了されていたようでした。

新春には明治から現代までの近現代美術で加越能の美術をお届けします。ご期待下さい。

最後になりましたが、本展覧会開催にあたり、ご協力をいただいた所蔵先各位、また関係の皆様により感謝申し上げます。

一月の行事予定

| | | | | | | | | | |
|----------------------------------|---|--|---------------------------|-----------------------|----------------------------|----------------------------|-----------------------------------|------------------------------|---|
| ■キッズ☆プログラム 十三時三〇分～ 美術館講義室集合 参加無料 | ■キッズ☆プログラム「3Dワークショップ 彫刻をつかまえよう！」 ※小学生対象、親子向けの鑑賞講座です。 | ■伝統工芸映画上映会「二回目 開会式有」十三時三〇分～二回目 十五時三〇分～ 石川県立美術館ホール 入場無料 | ■土曜講座 十三時三〇分～ 美術館講義室 聴講無料 | 八日 (土) 「松田権六と石川県の漆芸家」 | 十五日 (土) 「宮本三郎 — その生涯と芸術 —」 | 二十二日 (土) 「石川の彫刻 吉田三郎とその周辺」 | 二十九日 (土) 「石川県の工芸—人間国宝とその周辺(上) 染織」 | ■映像ギャラリー 十三時三〇分～ 美術館ホール 入場無料 | 九日 (日) ①「世界・美の旅 3 モネ ～印象派の巨匠～」(三〇分) ②「世界・美の旅 4 マネ ～落選した名画～」(三〇分) |
|----------------------------------|---|--|---------------------------|-----------------------|----------------------------|----------------------------|-----------------------------------|------------------------------|---|



木戸 修 きどおさむ 1950年(昭和25年)～



「スパイラル」は「螺旋」の意。作者は一貫してこのスパイラルをテーマに制作を続けています。現在、我が国のステンレス彫刻の第一人者といわれる作者の作品は、その多くが幾何学的な緻密・綿密な構成を元に、ステンレス素材の特徴を最大限引き延ばした作品作りを行っています。制作では材料となるステンレス板を一枚ずつ加工・溶接して仕上げられる精密で高度な技術の裏打ちによる手仕事に成るもので、現代的感覚に溢れた完成度の高い作品作りを特徴とします。本作品は切断面が三角形となるリングを三周させ所謂、メビウスの帯のように始めと終わりが連結したかのような不思議な組み合わせの構成作品となっています。また周りの風景を鑑賞者が立つ位置や視線を少しずつずらすことにより、リングの微妙な形の変化を楽しむとともに、鏡面磨きにしたリングの曲面は、観る者の角度により作品を取り巻く周りの風景やライトの輝きなどが映し出されては消えていく万華鏡的な変化に富むもので、さらに作品正面に立つと輪が向こうの風景を区画して在り、作品設置環境をも取り込んだ作品となっています。

作者は昭和二十五年（一九五〇）輪島市に生まれ、東京芸術大学彫刻科を卒業・同校研究科を修了。以降、東京芸大の教師として後進の指導にも当たるとともに、金属造形作家として、また数多くの野外彫刻設置を進めるなど、現代社会における彫刻の在り方を模索した作品など多彩な活動の展開を示しています。

次回の展覧会

| 前田育徳会 尊経閣文庫分館 | 第2展示室 | 第3展示室 |
|------------------------|-----------------|-------|
| 前田家の 天神信仰と文房具 | 刀剣の美 加州刀を中心に | 前田昌彦展 |
| 会期:2月11日(金・祝)～3月26日(土) | | |

| ご利用案内 |
|---|
| コレクション展観覧料 — 一般 350円 (280円) 大学生 280円 (220円) 高校生以下 無料 ※ () 内は団体料金 |
| 1月の開館時間 午前9:30～午後6:00 |
| カフェ営業時間 午前10:00～午後7:00 |

石川県立美術館だより 第327号 〒920-0963 金沢市出羽町2番1号
2011年1月1日発行(毎月発行) Tel:076(231)7580 Fax:076(224)9550
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

1月の休館日は
1日(土・祝)～3日(月)です